

まほろば



2019.11
第219号

看護学校誓い式

10月29日、秋も深まり木々の彩りも日ごとに変化を見せる中、私たち67回生40名は誓い式を迎えました。それぞれが理想とする看護師像を胸にナイチンゲールから灯を授かり、看護師を目指す決意を新たにしました。

2月に臨地実習を控える中、これからはより本格的に看護の専門知識や技術を学ぶ必要があります、大きな壁に直面することもあると思います。しかし、クラス目標である「勇往邁進」のように、どんな困難にもクラス全員で協力し、支え合いながら、自分の理想とする看護師像に近づけるように努力を惜しまず、前に進み続けたいです。

また、このように私たちが日々学ぶことができるのは、臨地実習を受け入れて下さる病院の方々、患者さんとそのご家族、先生方、先輩方、家族の存在があってこそだと感じます。たくさんの方々に支えられていることへの感謝を忘れず、一日一日の学習を大切に取り組みたいと思います。

弘前病院附属看護学校 1年：須藤 穂香



第11回母乳育児フォーラムを終えて

9月28日(土)、第11回母乳育児フォーラムを開催しました。各施設の医療関係者や看護学生さん、地域の保健師さんなどの参加があり、今年も盛況でした。

第一部では弘前市保健師尾崎弘子さんより、4月にヒロロに開設した「子育て世代包括支援センター」について発表していただきました。不安の強い妊婦さんや、産後の育児に悩む褥婦さんについて情報共有し、退院してからのサポートをしてくれるのが地域の保健師・助産師さんであり、とても頼れる存在です。今後の協力体制を強化していく上でとても参考になりました。

第二部では、昨年につき、弘前大学大学院こころの発達研究センターの三上珠希先生より「子育てとスマホの関係」～今



見る風船と触った風船では、情報の数がちがいます。体験って大事！

どんなことがわかってきているのか、小児科医が伝えたいこと～というテーマでご講演いただきました。現代の子どもたちは、幼少期からの情報は多いのですが、直接的な体験が不足していると言われています。スマホやパソコンではなく、幼少期の直接的な様々な体験は脳を育てる大切な活動であり、発達を意識して関わるのが大切であると学びました。親子のふれあいや、親子が共に過ごす時間が子どもの脳の発達にとっても大切であることを改めて実感しました。今後も赤ちゃんとお母さんが笑顔になる手助けができるよう、日々研鑽を続けていきたいと思っております。



弘前大学 三上先生

母子医療センター 看護師長：長尾 愛佳

たくさんの自然の中で

10月から弘前厚生学院記念館(旧偕行社)さんの庭園をお借りして、戸外遊びをさせていただいております。整備された芝生の上は、まるでフカフカの絨毯のよう。芝生の上を転がったり、走り回ったりと感触を楽しみながら、広いお庭で思いきり身体を動かしています。お庭の林の中を探検して、きれいな色の葉っぱやまつぼっくりを拾い、お友だち同士で見せ合ったり、ままごとごっこに使う物を自分たちで探してきたり、バツヤや

トンボを捕まえたりと……。中でも子どもたちが一番好きな遊びはかくれんぼです。隠れる場所がたくさんあり、室内ではできない本格的な?かくれんぼを、隠れる方も見つける方も必死で、夢中になって楽しんでいきます。自然豊かな環境は子どもたちにとって最高の遊び場です。工夫したり想像力豊かに遊ぶ子どもたちの姿はとても輝いています。

風の子保育園 園長：木村 美千代



第13回青森県臨床研修医ワークショップに参加して



令和元年10月18日(金)・19日(土)の2日間にわたり、青森県医師臨床研修対策協議会の主催、青森県立中央病院の担当で第13回青森県臨床研修医ワークショップが青森市浅虫にて開催されました。

本ワークショップは、青森県内の卒後臨床研修の充実と初期臨床研修医の資質の向上を図る目的として、青森県内の1年次の臨床研修医が一堂に集い開催されます。当院からも8名の研修医が参加いたしました。

今回は「少子高齢化社会に求められる医療連携」をテーマとし、講演、グループワークなど1泊2日におけるプログラムが組まれております。

1日目は、開講式のあと、青森中央学院大学教授 坂井哲博 先生の司会によるワールドカフェ「テーマ：少子高齢化社会で求められる医療体制とは」では、グループワークにより研修医の皆さんは活発な意見交換を行っていました。次に、弘前大学輸血・再生医学講座教授 玉井佳子先生より「輸血医療について～これまでの輸血とこれからの輸血～」について講演が行われ、少子高齢化社会における輸血に関する現状や今後の取り組みなどを話され、研修医は真剣な表情で聴講していました。

1日目最後のプログラムである懇親会では、三村青森県知事のビデオメッセージの後、各



病院ごとに研修医から病院紹介やユニークな演し物が披露されました。弘前病院のネタは、コーラを一気飲みし、ゲップを我慢しながら病院の紹介をするというものでした。一部の病院とネタが被りましたが、佐藤英太郎先生の1.5リットルのペットボトルのコーラを一気飲みした姿はインパクトが大きかったことでしょう。ノミネーションも今や死語となりつつありますが、いつまでも笑い声が絶えない懇親会となり、このような機会をいつまでも大切にしていこうと感じました。懇親会を通し、普段接することが少ない他病院の参加者同士の交流が深められたと思います。

2日目は、今回のテーマである「少子高齢化社会に求められる医療連携」に関する貴重な講演が行われ、研修医は熱心に聴講しておりました。

プログラムの最後に、修了式、記念撮影が行われました。総勢76名の研修医が今後も青森県内の医療機関での勤務を継続してくれることと期待しております。今回のテーマである少子高齢化社会に求められる医療連携については、身近に感じる問題であり、今後、弘前病院が新中核病院として役割を果たすためにも重要な事項であると考えます。

最後に弘前病院を青森県及び津軽地域における臨床研修指定病院として、今後さらに発展充実させていきたいと思っております。



庶務班長：越田 幸樹

研修医便り

臨床研修医1年目の高山 綾です。

研修医として国立弘前病院に勤めさせていただき、早くも半年が過ぎ、2019年も終わろうとしています。私の趣味は筋トレとサプリメントテーションです。時間さえあれば最も有効な筋トレ法や、栄養学(最近では特にグルタミン、EAA、BCAA)に関する情報(Youtubeから論文まで様々)について学んでいます。また、この趣味について分かり合える方がいらっしゃればぜひお友達になりたいです。しかし、本業がおろそかにならないように気を付けています。

私は、4月は血液内科、5～6月は麻酔科、7月は小児科、8月は精神科(弘前愛成会病院)で研修させていただきました。9月から10月までは呼吸器内科で研修させていただき、新しい発見と勉強の毎日で有意義に過ごさせていただいています。

現在私は麻酔科を志望しております。しかし、その志望科だけに捕らわれることなく、たくさんの方の診療科から勉強させていただき、少しでも皆さんの力になればと思っております。半年以上過ぎててもまだ拙い部分が多々あるとは思いますが、今後ともよろしくお願いたします。

臨床研修医：高山 綾



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (令和元年11月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	横田貴志
呼吸器内科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子
		下山垂矢子	田中佳人	田中佳人	—	田中佳人
		—	石岡佳子	—	—	—
消化器・血液内科		松木明彦	相原智之	相原智之	松木明彦	相原智之
		山口公平	間山恒	松木明彦	間山恒	山口公平
		佐藤年信	千葉裕樹	佐藤年信	山下覚	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	千葉裕樹	石黒陽	石黒陽
	午後 血液内科のみ	間山恒	山口公平	間山恒	山口公平	—
脳神経内科		廣畑美枝	清野祐輔	—	清野祐輔	清野祐輔
小児科		杉本和彦	佐藤工	敦賀和志	佐藤工	杉本和彦
		敦賀和志	松本麻希	佐藤啓	杉田梓	佐藤啓
		杉田梓	藤岡彩夏	藤岡彩夏	松本麻希	藤岡彩夏
外科		柴田滋	内田知頭	柴田滋	内田知頭	三上勝也
		—	堤伸二	堤伸二	堤伸二	—
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅
整形外科	午前	岩崎宏貴	秋元博之	秋元博之	中村吉秀	秋元博之
		藤田有紀	中村吉秀	岩崎宏貴	藤田有紀	中村吉秀
		猿賀達郎	藤田有紀	猿賀達郎	—	岩崎宏貴
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		飯野香理	松村由紀子	追切裕江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野香理
		松村由紀子	丹藤伴江	丹藤伴江	—	追切裕江
眼科		時苗順義	時苗順義	時苗順義	時苗順義	時苗順義
耳鼻咽喉科		西澤尚徳	西澤尚徳	(手術)	西澤尚徳	西澤尚徳
		松下大佑	原隆太郎	—	—	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	坂下仁菜	—	辰尾小百合	—
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	休診	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

小さな子 泣き声だけは 巨人級

(カマタ)

闘球の 猛者君が代に 涙する

(ムラマサ)

散歩道 日向求めて 急ぎ足

(石沢)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://hirosaki.hosp.go.jp/>

責任者：副院長 小田桐 弘 毅